

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 人間を知る	文化人類学	中島洋	2年次	春

授業のキーワード	好奇心、洞察力、寛容。
授業の概要・目的 及び修得させる知識・技能	文化人類学は、欧米の植民地主義を経て生まれながら、やがて反植民地主義の担い手となった。グローバル時代における新しい役割は何かを探る。
履修のアドバイス・ 前提科目等	特になし。ただし、グローバル時代に対応するには、まず英語が必要だろう。

授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	テーマ：文化とは何か。	文化人類学とは何か。文化人類学という「文化」とは何か。まず日本人の特異性を考えてみよう。	第9講	料理と食材	伝統的な料理は伝統的な食材に依存し、伝統的な食材は自然環境に負うところが大きい。
第2講	文化の特殊性と普遍性	それぞれの固有文化が持つ特殊性と、他の多くの文化に共通する普遍性について考える。さらには自己の思考軸を知ろう。	第10講	異文化との接触	異文化と接触したとき、何が起るのか。異文化の受容と拒否について考えてみよう。
第3講	新聞と文化	文化が異なれば、新聞の紙面も異なる。日本の新聞と外国の新聞を比べてみよう。	第11講	自然条件と生活様式	人間は自然条件に適合して生きてきたが、社会の近代化と自然環境の変化は、生活様式をどのように変えるだろうか。
第4講	言語と文化	世界には何億人にも使われている言語と、数百人にしか使われていない言語がある。言語の発生と消滅について考察する。	第12講	移民	かつて日本は移民を送り出す国だったが、いまや海外から流入する外国人に対応する時代だ。
第5講	海と人間	海は人間のためにさまざまなものを生み出し、また、自然環境にも大きな影響を与えている。海と人間の関わりを考究する。	第13講	外交	文化、宗教、イデオロギーの違いが外交を複雑化する。日本の外交の高度化には何かが必要か。インテリジェンスについても考えよう。
第6講	育児と教育	育児も教育も文化圏ごとに異なる。どのような差異があるか。母系制社会と父系制社会についても考える。	第14講	戦争	戦争はなぜ起るのか。その原因を考え、平和の維持には何かが必要か考察する。
第7講	姓と名	本来、姓や名は出自を表し、祖先からの系譜を共通にする人々が一つの集団を形成していた。しかし、職業や出身地を表す姓もある。また、姓がない民族もある。	第15講	試験または論文提出	
第8講	地球温暖化と縄文の海進	地球温暖化による海面上昇と縄文の海進を比較して考えてみよう。今後の海面上昇は、世界に何をもたらすだろうか。	評価方法		授業への取り組み（出席、課題を含む）40%。試験または論文の評価60%。
	備考 (関連する資格・試験等)	特になし。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
なし。毎回レジュメを配布する。			ルース・ベネディクト『菊と刀 日本文化の型』講談社学術文庫、2005年。 サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社、1998年第1刷。 古田博司『新しい神の国』筑摩書房ちくま新書684、2007年第1刷。		